

大山町議会議長 野口俊明 様

大山町議会議員

岩井美保子



平成 25 年大山町議会議員研修報告書

1	日 時	平成 25 年 8 月 1 日 (木) ~ 2 日 (金)	
2	研 修 地	滋賀県大津市 全国市町村国際文化研究所	
3	研 修 内 容	(内 容)	(場 所)
		(1) みんなで楽しく汗して自分たちのまちを豊かにしよう	滋賀県大津市
		(2) 東日本大震災以降の経済とモノづくり	滋賀県大津市
		(3) 「都市再生」と「コミュニティ創生」で進める持続可能な協同のまちづくり	滋賀県大津市
		(4) 「飯田方式」から学ぶ中心市街地の再生	滋賀県大津市
4	研修結果 又は概要 (意見・感想)	(1) みんなで楽しく汗して自分たちのまちを豊かにしよう 活性化が必要な地域 ・ 農林水産業、製造業等の主な生産機能が弱体化した地域 ・ 移入が移出より大きく、域際収支が赤字の地域 ・ 地場産業振興、起業の動きがなく、雇用確保できない地域 ・ 行政の財政事情が危機に陥っている地域 活性化の方策 ・ 地場産業と連携等が出来る企業誘致、人材招致 ・ 公共投資などの財政政策による所得移転 ・ 部分個別最適から全体最適の思考	
		(2) 東日本大震災以降の経済とモノづくり ・ 東北モノづくり企業の課題の一つは自動車 ・ 被災地の生活関連中小企業の課題	

		<p>(3) 「都市再生」と「コミュニティ創生」で進める持続可能な協同のまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体行政が議会と共にめざす住民本位の地方自治 ・自治体経営では、限りある財政を有効に活用し自治体の持続可能性を確保することが課題 ・住民本位の行政を実現するために必要な住民との相互信頼基礎となる参加と民学産公の協働 ・自治体は二元代表制 ・住民から信託された市町村長と市町村議会が、緊張関係と協調関係のバランスのなかで、共に住民本位の自治体の在り方をいかに創造していくかが求められている
4	<p>調査結果 又は概要 (意見・感想)</p>	<p>(4) 「飯田方式」から学ぶ中心市街地の再生 これらの事業で学んだこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策によって、地域は全く違う形になる ・国は部品を作ってくれる、しかし、完成品を作れるのは「基礎自治体」 ・今までの延長線に未来はない ・今大切なのは「土地の総有」と「ファンド」 ・一般界・・・凡庸、特殊界のみ普遍性を生む
		<p>(5) まとめ</p> <p>大山町でもすでに取り組んでいると感じている でも、何一つにおいても満足つまりは合格点には達していない 一つ一つの事業を点検してみることが必要不可欠と思いました。</p>